

第329号
平成27年

9月12日

すまいるたうん



発行元
東京新聞
南千住専売店
TEL3803-1781
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

懐かしい温もりとの出会い 柔らかな吉野健一の世界展

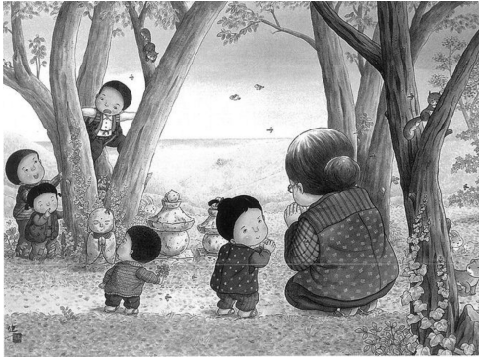
「物はない時代でしたが、人々は助け合いながら生きていました。そうした人と人の愛、自然とのふれあいを描きたいのです」

童画家 吉野健一さんが61歳で亡くなり十三回忌の節目として「心のふるさと（童画家）吉野健一の世界展」がムーブ町屋で開催されます。

荒川区で生まれ育ち、荒川を愛した健一さんは、学研や幼児雑誌や学校の教科書のさし絵等を多く描かれています。

静かな優しい筆使いである独自の画風は、国内を始め世界的にも認められ、アジア芸術祭・イタリア・モンテフェルトロ公園芸術祭・フランスのル・サロン展など多くの賞を受賞致しました。

「生で見ることで気づきがあります」



祈り

「オリジナルの作品ができます。」

多くの古布が用意された自宅で布夢彩画教室（会費二千円）を開いています。思わず触りたくなる布の質感、美しい彩りが油絵のようで眼を和ませてくれます。

「祈り」に描かれている自然と動物と子どもの世界から、お地藏さんに手を合わせるおばあさんの真似をして女の子、木登りしている子を枝でいたずらつする男の子、観ているうちに子どもの無邪気な声、秋の気配を感じます。

昭和の匂いにする風景、柔らかな色と線の流れに感じる懐かしさに、気持ちがほぐれて行きます。

「布夢彩画展も同時に開催します」

布夢彩画とは、時代ぎれ（使用しなくなった着物などの古布）や眠っている布の切れ端をハサミで切って色紙やはがきなどにのりで貼り付けて作成する布絵です。

「布夢彩画に魅せられて」

吉野健一さんの奥様の喜久美さんは、生前中は二人三脚で影となり、健一さんを支えて来ました。

健一さんのお引き合わせでしょうか。

喜久美さんは、健一さんの亡くなった後に巡りあった布夢彩画に魅せられ、美しい作品を次々に作成されています。

「見てほつとして頂きたい」

健一さんの童画、喜久美さんの喜楽会布夢彩画教室の作品どちらも郷愁を感じられる温かさがあります。入場無料です。柔らかくほぐれて行くひと時を過ごしにお出掛けください。

心のふるさと（童画家）吉野健一の世界展

平成27年9月20日(日)～26日(土)

午前10時30分～午後6時(20日は正午から、26日は午後5時迄)

ムーブ町屋4階ギャラリー--(都電町屋駅徒歩1分)

tel:03-3819-7761 fax:03-3819-7763

布夢彩画教室

荒川6-27-1

お問合せ tel&fax:03-3895-1711